

日本電気協会中部支部 第66回特別功績者表彰【発明等功績】を受賞

2019年3月25日に、一般社団法人日本電気協会中部支部が開催した電気記念祝賀会にて、第66回特別功績者表彰授賞式が行われ、賞状ならびに記念品が受賞者に贈呈されました。同賞は電気に関する有益な発明等の功績者に授与されるもので、エネルギー応用研究所エネルギー提案グループ(当時)の林大介副主査が受賞しました(写真1)。

「始動時間とエネルギー消費量を半減した吸収冷温水機の開発」

大規模建物の空調システムで用いられる吸収式冷温水機の大きな弱点の一つである長い始動時間の主因を突き止め、始動時間とエネルギー消費量の削減を実現しました。これにより、吸収冷温水機が電気式冷水機と同等の時間で始動できます。

この吸収冷温水機と電気式冷水機を併用して空調するシステムにおいては、従来に比べて高効率な電気式冷水機を優先的に運転できるようになり、エネルギー消費量

(ランニングコスト)を削減できます。こうした高い省エネ性が評価されました。



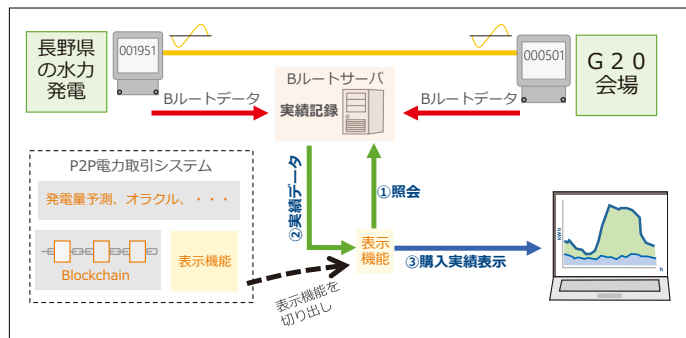
写真1 受賞した林さん

G20関係閣僚会合会場にて技術協力(長野県軽井沢町)

技術企画室・企画グループ・技術革新推進ユニットの田中弘生さんらのチームは、2019年6月15～16日に軽井沢プリンスホテルで行われた「G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」にて、会場へのCO₂フリー電力^{*1}供給の見える化に関する技術協力を行った。

P5～6にてご紹介したP2P電力取引システムの表示機能を活用する事により、地産地消取引の見える化を実現している(第1図)。

長野県内に立地する水力発電所由来のCO₂フリー価値を活用し、CO₂排出量ゼロの電力供給を実現するもので、閣僚の会議場スクリーン(写真1)と長野県企業局の展示ブースにて表示され会場関係者へリアルタイムで状況を伝えた。



第1図 CO₂フリー電力供給の見える化概要図

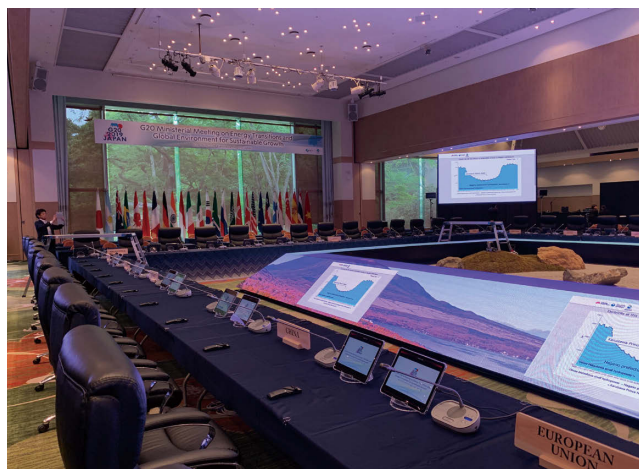


写真1 閣僚会議場モニター(中央テーブル及び大型スクリーン)

*1: 発電の過程で二酸化炭素(CO₂)を実質的に出さない電気のこと